

スペイン

FILSE（スペイン手話通訳者および盲ろう者通訳ガイド者協会）

www.filse.org

www.facebook.com/FILSE.org

スペイン概要

国土：504,780 km²

人口：47,150,800（2011年1月1日現在）

首都：マドリッド

ろう社会

全国ろう者協会

CNSE (Confederacion Estatal de Personas sordas de Espana) スペインろう者連盟

www.cnse.es

CNSEには、手話技術養成と出版を司っている姉妹組織がある。

www.fundacionense.es

聴覚障害者人口：約1,000,000人

ろう者：約120,000人

難聴者：約365,000人

音声機能障害：約530,000人

およそ150,000人の聴覚障害者がスペイン手話またはカタルーニャ手話を使用している。しかしそれに加え、およそ250,000人の聴者（通訳者、家族、専門家、学生）も手話を使用している。

法的枠組

スペイン政府は2007年にスペイン手話を認知している。この法律の全文は以下から閲覧可能（スペイン語）：

<http://www.boe.es/boe/dias/2007/10/24/pdfs/A43251-43259.pdf>

加えて、スペインには障害者差別に関連する様々な法律がある。

カタルーニャ、アンダルシア、バレンシアのようないくつかの地方政府では、地域内の規則や地域特別法によって手話を正式に認めている。

ろう教育

ほんのわずかなろう児のための学校が例外的にまだ存在するが、これらの学校の在校生は重複障害児である。ろう学生に対する大多数の学校はメインストリーミング法で、初等レベルでは手話のサポートが付き、中等レベルでは手話通訳がつくという特徴的なものである。過去 10 年間に大都市ではバイリンガル・バイカルチュラル法が 4、5 校で少しずつ実施されるようになった。最近では大学レベルの学習に追いつく学生がますます増加している。

手話

LSE(スペイン手話)は、スペインほとんど全土で使用されている。(最近ではカタルーニャでも LSC と共に使用されている)

LSC(カタルーニャ手話)は、カタルーニャ地方で広く使用されている。

音声言語

スペイン語：スペイン全国の公用語。

バスク語：スペイン北部のバスク地方の共用語。

カタルーニャ語：スペイン東部のカタルーニャ地方の共用語。

ガリシア語：スペイン北西部のガリシア地方の共用語。

手話通訳者

通訳者協会

FILSE (スペイン手話通訳者および盲ろう者通訳ガイド者協会)

www.filse.org

www.facebook.com/FILSE.org

filse@filse.org

FILSE は各地域の手話通訳者協会を傘下にまとめた組織である。個人会員は地域の協会に登録している。

会員数

FILSE には 11 地域協会が加盟しており、これらの協会に総計約 560 名の個人会員がいる。

通訳者養成

スペインには法的に認可された正式な資格が1つだけある。この資格は以下の11科目で2000時間の構成となっている高レベル手話通訳養成(Ciclo formativo de Grado Superior en Interpretacion de la Lengua de Signos)（2年間の専門養成コース）から与えられる。

スペイン手話

現代言語（英語）

ろう者と盲ろう者の社会心理学

ボディランゲージ（非言語コミュニケーション）

通訳技術

労働市場オリエンテーション

スペイン手話言語学

通訳背景

国際手話システム

盲ろう者通訳ガイド

手話通訳者を雇用している組織（ろう協、高校など）での実習（3ヶ月）

- スペインでは専門養成コースが約50カ所で開催されている。資格を持った手話通訳者（約5,000人）の膨大な人数においてスペインは秀でている。この内、わずかな通訳者（およそ15~20%）しか実際に通訳者としての仕事を得ていない。これは通訳サービスの対応不足によるものである。
- 2008年にバルセロナにある大学（ポンペウ・ファブラ大学）が翻訳と通訳の学位プログラム内の言語の1つとして提供し始めた。
- バリャドリッド大学では、法律と教育分野のための手話通訳者養成に特化した正式なヨーロッパ・修士号を与えている。このコースはすでに資格を保持している手話通訳者を対象に行っている。
- ボローニャ・プロセスから始まった大学改編の結果として、他の大学が手話通訳を含むコースの提供を始めているが、これらの資格に関してはコーディネートや規定がないようである。
- 現在のスペインの養成状況は過渡期にある。一方ではこれらの新しい“正式な”大学養成がどんな地位を築いていくのかははっきりしていない。また一方では、専門養成コースは修了し、手話通訳者養成は大学レベルで行われていくことになりそうである。しかし、現在のところではこれをどのように実現していくのかの指標がない。

テスト／評価について

現在、スペインでは手話通訳者（または、手話言語能力）に対する外部／独立

でのテストや評価を行っている機関はない。

専門養成コースにはテストや評価（それぞれの教科において、上記参照）が含まれている。もし試験に合格しなければコースを修了したことにはならない。

認定／資格について

- 現在、スペインでは手話通訳者（または手話能力）の認証または資格を与える外部／独立した機関はない。専門養成コースが正式な全国的養成システムの一部となっており、公式資格（国家資格）を得ることができる。
- 1997年にこの専門養成コースが始まる以前には、試験／資格認証は全国ろう者協会によって行われていた。公式資格（専門養成コース）として制度を整える際に1997年以前に資格を獲得した者のみが通訳者として認められるということを確認するための複雑で長期にわたる経緯があった。この手続きはFILSE、全国ろう者協会、全国盲ろう者協会、関係省庁と共に話し合われた。
- 大学での養成へ向けての現在の動向では、今後どのような認定評価プロセスが行われることになるのか明確ではない。

2007年以降の主要事業

- スペイン手話を認めた法律の通過と、手話通訳者の役割と重要性の特記（上記「法的枠組」参照）
- 2008年バルセロナにて全国手話通訳者会議開催
- 2010年マドリッドにて全国手話通訳者セミナー開催
- コミュニティ通訳に対する提言公表への参加を含む、音声言語の通訳コミュニティとのより強力な連携
- 大学での通訳者養成の場の増加
- 様々なビデオ通訳サービスの開始
- インターネットやテレビで、手話と手話通訳を目にする機会の増加
- 政府による全国手話センターの設立と全国ろう者協会によるその運営。センターの目的は手話による養成の企画とコーディネート、手話通訳に関連する内容の宣伝

今後の目標

- 職場環境、および手話通訳者と盲ろう通訳ガイド者への専門職としての認知の改善
- 手話通訳者、利用者、サービス提供者に対する手話通訳者の参考実践ガイドの作成

- 専門職レベルから新しい全国手話センターや全国ろう者協会と協働する大学レベルへの基礎的手話通訳者養成法の移行の監督指導